

第 36 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和 3 年 11 月 16 日（火） 13：00～15：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

1. 東電エンジニアリング状況について

東京電力から既設配管を用いた RPV 内部調査について及び、1 号機及び 2 号機非常用ガス処理系配管の一部撤去について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

既設配管を用いた RPV 内部調査について

○調査技術の開発に当たっては、RPV 中の損傷状況について仮説を立てて、アクセス箇所や調査方法を検討することが重要である。

○先端が歪曲可能なファイバースコープを使用すると視認範囲が広がるので、計装配管にあるオリフィスの拡管についても検討することが望ましい。

○本調査の結果が出た際には、これまで実施してきた国プロの技術開発に反映させて生かすことが重要である。

1 号機及び 2 号機非常用ガス処理系配管の一部撤去について

○水素が確認された箇所について、その水素の発生原因を調査しておくことが望ましい。

○配管の細断はリスクの高い作業と考えられることから、原子力学会標準のような過去の知見を活用することが重要である。

2. 次期研究開発計画について

NDF から研究開発中長期計画、技術課題まとめの最新版及び、次年度一件一葉の骨子について説明した。専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○研究開発計画の検討に当たっては、基礎基盤研究を進めている英知事業と有機的に連携していくことが望まれる。

○次期研究開発の方向性が妥当であることを確認するため、過去の研究開発成果、研究結果も分かるような説明とすることが望ましい。

3. 遠隔装置保守の技術開発について

東京電力及び IHI から遠隔装置保守の技術開発について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○保守性を念頭に置いた設計、共通化による仕様の統一、保守手順の統一化等は重要である。対象機器、想定作業の整理、想定外事象への対処について検討し、システムチックに要求仕様をまとめることが望ましい。

- 最終的に撤去することも念頭に置いた装置設計を実施することが望ましい。
- 規制との整合性を取ることを念頭に置き、本技術開発を進めることが望ましい。

以上